

伊勢湾港湾機能継続計画検討会議（第1回） 議事要旨

1. 日時・場所：平成25年11月27日（水）15:00～17:00 名古屋栄カンファレンスセンター
2. 議事次第：伊勢湾港湾機能継続計画検討会議の設立について
講演「震災の教訓と港湾BCPについて」横浜国大 宮本卓次郎教授
伊勢湾の港湾機能継続に向けた検討について 等
3. 議事要旨

○講演（横浜国立大学 宮本 教授）

- ・何を早期に復旧させるか、「中核業務」を選定することが必要。
- ・啓開作業（瓦礫処理）にはご遺体があり、機械作業不可。自衛隊・警察との連携が不可欠。
- ・油流出が発生した場合、海からも陸からも入れない状況になる。
- ・船舶座礁は大きな問題が生じる。撤去に係る責任問題の解消に約1年の時間を費やした。
- ・有事の際のスムーズな連絡体制の実現には、日頃から顔が見える形での関係構築が重要。
- ・フェリー・RORO船は、荷役施設の有無に関係なく、荷が自走して搬出できるため効果的。
- ・発災時は何が起こるか分からないため、BCPには柔軟性を持たせたほうが良い。

○意見交換

【経済界、港湾関係事業者等】

- ・指揮命令システムの明確化が重要。
- ・伊勢湾港湾において作業船の常時配置が必要。
- ・災害時における海上・陸上輸送の規制緩和が必要。
- ・災害時におけるタグボートの緊急的有効活用の検討が必要。
- ・内航海運は、乗組員の高齢化及び船舶の老朽化が進行し、災害時対応ができるのか疑問。
- ・緊急輸送活動に従事する船舶への給油ができるのか心配。
- ・湾内に取り残された大型船の湾外出航について検討が必要。
- ・有事の際に貢献するためには、自らの早期復旧も大切。

【国の機関、港湾管理者】

- ・通常貨物輸送の検討には、外貨貨物だけでなく内貨貨物も必要。
- ・通常貨物輸送の検討には、航空宇宙産業のSea&Air輸送（B787部品）も対象とすべき。
- ・燃料の輸送、ヤードの確保や燃料供給拠点の確保が課題。
- ・中部運輸局の船舶リストの作成・共有化に加え、有事の際の海上輸送について指揮命令機関が必要。
- ・海上保安部の人命救助活動は、港湾BCPに移るための前段の役割を担っていると考えるため、今後も責任を果たしていく。
- ・早く伊勢湾BCPの形が見えるようにして欲しい。
- ・伊勢湾外との連携が必要（日本海側の港湾 等）。